

## 屋久島生態系モニタリング

### 屋久島北部の植生垂直分布調査(平成 22 年度)

#### ●標高 1250 ㍍プロット

山腹平衡斜面の 197 年生の天然林。樹高 16 ~ 17 ㍍、胸高直径 200 ㍉以上のスギの大径木が保残。プロット内外にはスギの伐株(江戸時代の伐採と思われる)やツガの倒木、ハリギリの大径木(樹高 17.1 ㍍、胸高直径 165.6 ㍉)も見られる。局所地形は平衡斜面で、平均傾斜 41°、斜面方位は北向き、標高は 1270 ~ 1280 ㍍範囲。**[高木層]**スギ(2 本は胸高直径が 2.59 ㍉と 2.04 ㍉)・ヒメシヤラ・ヤマグルマが混生。スギの大径木にはアオツリバナ・ヒノキ・ナナカマドが着生。**[亜高木層]**ハイノキが多く、ユズリハ・サクラツツジが混生。個体数は少ないがスギ・ヤマグルマ・ヤマボウシ・カナクギノキ・タンナサワフタギも生育。**[低木層]**植被率は低い、ハイノキ・サクラツツジ・ヒメシヤカキの個体数は多い。他にユズリハ・シキミ・スギ・ヒメシヤラ・ヤマグルマ・タンナサワフタギ・ヤマシグレ・アセビ・ナナカマド・コバノクゾル・ツゲモチが生育。**[草本層]**植被率は低い、ハイノキの本数は多い。個体数は少ないがヤマグルマ・フタリシズカ・ヒメヤマスマ・リョウブ・ヒメツルアリドオシ・オオゴカヨウウレンや、コバノシカグマ・ゼンマイ・キジノオシダなどのシダ植物も生育。**[特徴]**スギ・ハイノキ群集。プロットは 2 本のスギ大径木とヤマグルマによって樹冠が覆われており、植被率の変動は見られない。標高の高い天然スギ林内に多く出てくるヒメシヤラ・ヤマボウシ・タンナサワフタギ・コバノクゾルなどが生育。**[5 年前との比較]**亜高木層のユズリハ、低木層のハイノキの生育が旺盛で、タンナサワフタギやカナクギノキ等落葉広葉樹が被圧され衰退しつつある。ヤクシカの食害が目立ち始めてきた。



直径 2 ㍍以上の巨木の前で

屋久島「のプレイベント」として、5 月 25 日に本年新たに設定したヤクタネゴヨウ植物群落保護林において現地見学会を開きました。一般参加者 17 人は、保護林が遠望できる瀬切大橋でコース説明を受けた後、大川林道上部に移動。標高 900 ㍍の眼下に広がる豊かな照葉樹林とその上部に点在するヤクタネゴヨウを展望し、当センターの前田三文所長が、保護林の概要を説明しました。また、ヤクタネゴヨウ調査隊の手塚賢至氏から

## ヤクタネゴヨウの巨木の森を訪ねる 第 2 回国際照葉樹林サミット in 屋久島プレイベント

平成 26 年 6 月 6 ~ 8 日に屋久島で開催される「第 2 回国際照葉樹林サミット in 屋久島」のプレイベントとして、5 月 25 日に本年新たに設定したヤクタネゴヨウ植物群落保護林において現地見学会を開きました。

一般参加者 17 人は、保護林が遠望できる瀬切大橋でコース説明を受けた後、大川林道上部に移動。標高 900 ㍍の眼下に広がる豊かな照葉樹林とその上部に点在するヤクタネゴヨウを展望し、当センターの前田三文所長が、保護林の概要を説明しました。また、ヤクタネゴヨウ調査隊の手塚賢至氏から

はヤクタネゴヨウの保全に向けた調査概要の説明を受け、2 班に分かれてヤクタネゴヨウの巨木がある標高 500 ㍍地点を目指しました。途中、枯れたヤクタネゴヨウの幹にヤクタネゴヨウの芽生えが成長している姿や人工林の際で成長する樹高 5 ㍍程度のヤクタネゴヨウを見ながら巨木を目指しました。さらに尾根筋を下ると他の樹木を圧倒するかのような直径 2 ㍍以上のヤクタネゴヨウが現れ、参加者は一様に感嘆の声を上げていました。

希少種となったヤクタネゴヨウは地形の険しい尾根筋に点在するのみで、巨木を間近に見ることは簡単ではありません。このため、ヤクタネゴヨウの巨木を見たいという参加者の思いは強く、帰りの 2 時間近くの登りに苦勞しながらも満足げで、「現地見学会をまた開いてほしい」との声が聞かれました。

林野庁の保護林制度は来年で 100 周年を迎えます。長い歴史の中、日本の貴重な森林が守られています。新たに設定したヤクタネゴヨウ植物群落保護林が、将来にわたってその保全に大きく貢献することが期待されます。

## 屋久島の植物



ヤマモモ (ヤマモモ科)

関東以西に分布する常緑高木。葉は倒披針形で全縁かまばらな鋸歯がある。幼木の葉には鋭い鋸歯がある。果実は黒っぽい赤色に熟し食べられる。屋久島では大きな果実のものを「みずもも」と呼ぶ。花期 3 ~ 4 月、果期 5 ~ 6 月。

## 「シヤクナゲパトロール」開始

登山者へ安全など呼びかける

ヤクシマシヤクナゲの開花時期を迎え、屋久島森林生態系保全センターでは、例年、登山者が多くなる時期に屋久島森林管理署と協力し「シヤクナゲパトロール」を行っています。

本年は 5 月 26 日 ~ 6 月 6 日を計画。高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしていきます。春先にかけて気温の変動が大きかったため昨年より開花が遅れているようですが、つぼみは昨年に増して多く見られるようになります。



咲きほこるヤクシマシヤクナゲ

登山者のマナーも向上していますが、小屋周辺にゴミが落ちていたり、ゴミキャップが装着されていないストックを使用しているなど一部心ない登山者もいるようです。今後も引き続き呼びかけを行うなど登山マナーの向上に取り組むこととしています。



パトロールする職員

6 月 6 ~ 8 日は屋久島において第 2 回国際照葉樹林サミットが開かれます。安全を確保し多くの方々へ屋久島の悠大な自然を満喫いただければと思っています。

# オーストラリアからの一行 ヤクタネゴヨウ採取林を視察



ヤクタネゴヨウをバックに記念撮影

平成26年5月11日、オーストラリアのタスマニア州から屋久島を訪れた18人の方々が屋久島町船行に設定されているヤクタネゴヨウ採取林を視察しました。

タスマニアには世界遺産（複合遺産）タスマニア原生地域があります。一行はタスマニア原生地域で保全活動を行っているボランティアとその家族の方々と、世界遺産屋久島の自然と保全活動を視察したく今回の訪問となったものです。

現地では保全センターの前田三文所長が屋久島における国有林の取り組みについて説明。また、ヤクタネゴヨウ調査隊の手塚賢至・田津子ご夫妻がヤクタ

ネゴヨウの希少性・調査隊のこれまでの取り組みやマツノザイセンチュウがもたらす被害などについて説明を行いました。屋久島在住のステイブン・ベル氏は、マツノザイセンチュウなど専門用語の通訳に苦慮されていました。タスマニアで実際に保全活動を行っている人々の理解は早く、短時間ではありましたが、希少種ヤクタネゴヨウの保全活動の一端を理解していただけたのではないかと思います。

最後に一行からヤクタネゴウ調査隊の保全活動に役立てて欲しいと寄付の申し出があり、その場で手塚氏に贈呈されました。

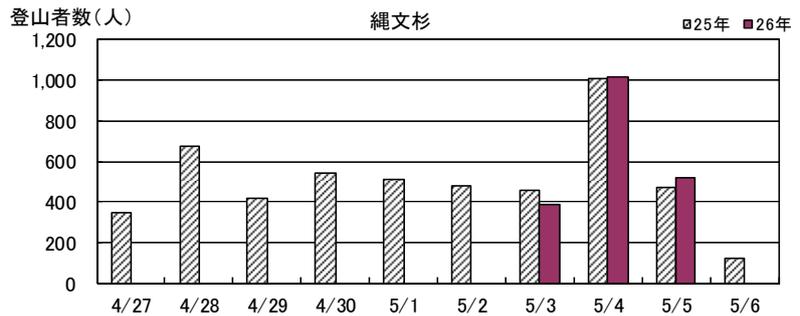
保全活動を行っているもの同士の交流を深める1日となりました。



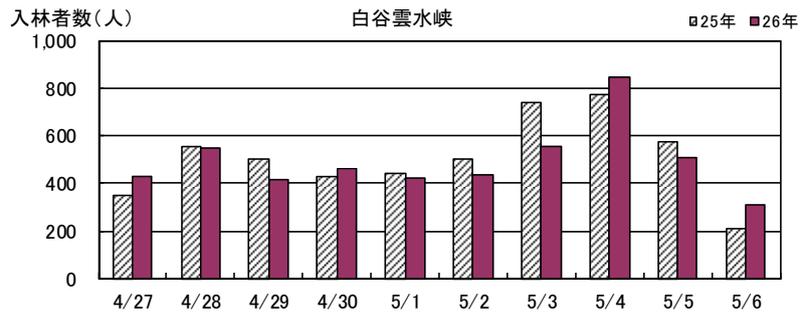
視察団から寄付を受け取る手塚氏

## 【GW 期間中における縄文杉登山者数と自然休養林入林者数】

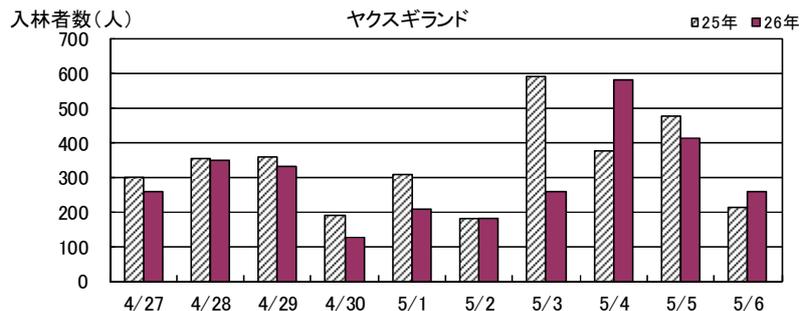
	縄文杉		
	25年	26年	前年比
4月27日	354	—	—
4月28日	674	—	—
4月29日	423	—	—
4月30日	545	—	—
5月1日	511	—	—
5月2日	479	—	—
5月3日	457	384	-73
5月4日	1,007	1,016	+9
5月5日	472	518	+46
5月6日	128	—	—
合計	5,050	1,918	
日平均	505.0	639.3	—



	白谷雲水峡		
	25年	26年	前年比
4月27日	351	427	+76
4月28日	556	545	-11
4月29日	497	417	-80
4月30日	426	463	+37
5月1日	440	425	-15
5月2日	500	437	-63
5月3日	737	555	-182
5月4日	773	844	+71
5月5日	573	507	-66
5月6日	211	313	+102
合計	5,064	4,933	
日平均	506.4	493.3	-13.1



	ヤクスギランド		
	25年	26年	前年比
4月27日	301	260	-41
4月28日	357	350	-7
4月29日	359	333	-26
4月30日	191	125	-66
5月1日	312	207	-105
5月2日	182	181	-1
5月3日	591	258	-333
5月4日	377	581	+204
5月5日	478	413	-65
5月6日	215	257	+42
合計	3,363	2,965	
日平均	336.3	296.5	-39.8



\*縄文杉登山者数の25年は10日間、26年は3日間の合計及び平均。

\*■：休日

\*縄文杉登山者数は屋久島山岳部利用対策協議会の調査、自然休養林入林者数は屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の調査による。